

第2回 南丹市環境審議会 議事録

日時：平成22年3月12日 13:30～15:30

場所：南丹市役所 2号棟 3F 301会議室

〈出席者〉

中川委員、井尻委員、出野委員、岸上委員、高井委員、高屋委員、滝野委員、田中委員、
谷尻委員、仲 委員、原田委員、松本委員、宮田委員、用澤委員、山下委員
(欠席：松田委員、前田委員)

〈次 第〉

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 新委員紹介
4. 副会長の選任について
5. 審議事項
 - 1) 基礎調査結果の報告
 - 2) 南丹市の環境における課題の整理
 - 3) 南丹市環境基本計画の体系
 - 4) 策定体制について
○WG構成の検討
 - 5) その他
○今後のスケジュール等
6. 閉 会

＜ 1. 開会 ～ 4. 副会長の選任について ＞

事務局進行のもと、執り行われた
副会長には仲委員が選出された

＜ 5. 審議事項 ＞

【 1）基礎調査結果の報告－「人づくり」「生活環境」について－ 】（コンサルより説明）

会 長：（1）大気、騒音・振動、悪臭 の最後に「国道 9 号における測定結果がともに道路に面する地域の環境基準を上回っている」とあるが、国道 9 号とどう関係があるのか、また、上回っているとは、大幅に上回っているのか、少し上回っているのか等を教えていただきたい。

（5）不法投棄等 で「河川へのごみの投げ捨てや増水時の林地残材の流入など」とあるが、林地残材は投げ入れられるものではないので、表現を改めた方がよい。

【 1）基礎調査結果の報告－「地域環境資源」について－ 】（コンサルより説明）

会 長：（1）動植物 市内の植生自然度に、できれば「竹」の割合も入れるとよい。今後問題になってくると思われる。

動植物の被害として「ナラ枯れ」があげられているが、ナラ枯れは病気なので表現を改めた方がよい。

「森の更新が止まるという問題」とあるが、下層植生の減少により土壌が流れてしまうことの方が深刻な問題となっている。「森の更新が止まると同時に、土壌の流出が懸念される」などと追記した方がよい。

（2）地形・地質はレッドデータブックについての記述となっているが、この前に市域全体の一般的な記述（〇〇の占める割合が高い、など）を入れるとよい。

自然環境については（特に（1）動植物）特に大きな問題と思われるので、もう少し記述を増やしてもいいように思う。

【 1）基礎調査結果の報告－「循環型社会」について－ 】（コンサルより説明）

会 長：（1）～（4）通して、可能な限り具体的数値を出した方がよい。例えば（1）廃棄物 「可燃ごみは増加傾向にあり」は、〇年前に比べて〇倍、「1 人 1 日あたり排出量 590 g」は全国または京都市平均の〇 g に比べて多い、少ないなどがあると分かりやすい。

八木バイオエコロジーは八木バイオエコロジーセンターではないか。

（4）水循環 「河川護岸～親水性が失われつつある」は、生物多様性の視点からは必ずしも悪い状況とは言えない。その点も併記するとよい。

「湧水や地下水が良好な状態で維持」とあるが、「維持」という言葉は適切か。

後で相談したい。

【 1）基礎調査結果の報告－「地球環境」について－ 】（コンサルより説明）

会 長：（1）地球温暖化 最後の「0.52%削減することができた」のように、問題だけでなく成果のあったものについてもたくさん記載していくとよい。

【 2）南丹市の環境における課題の整理 】（コンサルより説明）

委 員：「現状のまとめと主な課題」は、参考資料のまとめになっているが、まとめ方に無理があると思う。細かい数値については参考資料を見れば分かるが、まとめだけ見るとそれらのデータが無く、逆に分かりづらい。ため池の数が参考資料P1-81 とまとめで違っている。

H17にはごみ排出量は1人1日490g（現在は590gに増えた）であり、日本一生ごみ（生活系ごみ）の少ないまちとして紹介されていた。現在、事業系ごみは事業者が有料で回収しており、分別していない。そのあたりの実態を調べるとよいと思う。

会 長：「現状のまとめと主な課題」について、データや文言に参考資料との食い違いがあること、課題についてももう少し掘り下げるべき、との意見であり、同感である。課題については今後ひとつの指標となるものなので、もう少し丁寧に記載すべき。

ごみが490g→590gに増えた背景にとるべき対策も見えてくるだろう。

課題4. 循環型社会 で、例えば木質バイオマスのエネルギー利用状況についてなど、具体的なものがあると、課題・今後の目標などを検討しやすい。優先すべき課題について、それぞれの立場での意見もあるので、今回はこのあたりを検討できればと思う。八木バイオエコロジーセンターのメタン発電は全国的にもめずらしい取り組みである。このような成果も記載しておくべき。主な課題の前に、現状の成果と目標（今後どうすべきか）を入れるとよいのではないか。

委 員：参考資料 P1-76 真ん中に「木質ガス化、ペレット化」のフローがある。上のメタン発酵同様、木質系のバイオマス利用も実現できればと思う。

委 員：木質残渣の最終処理については課題となっている。森林組合でも何か構想があるのかもしれない。京都市右京区（旧京北町）では、京都市からの補助金でペレット工場をつくっているが、その社長と交渉を進めたいと思っている。木は京都市・南丹市とも有意義な資源であるので、何か一緒に利用する手はないかと思う。京都市は京北町と合併したことにより森林が豊富になり、温暖化対策として吸収量も見込んでいることから、地域資源の活用ということでペレット化を始めるようである。美山町森林組合でもペレット販売はしていると思うが、そのルートについて、バイオマスタウン構想の中で何かでき

ないかと思う。

会 長：バイオマスタウン構想の「木質ガス化、ペレット化」のフローは簡易なものになっているが、今後WGの中で精査し、南丹市の実態にあった仕組みをつくっていったらどうかと思う。

委 員：参考資料に地域活動団体が記載されているが、住民から見ると、他にもまだ環境に関する活動をしている組織があると思う。それらを入れるべきかどうか。また、氷室の郷は環境教育にもつながる、誇れる施設だと思うが、施設の一覧に入っていない（公共施設に入るのかどうか不明だが）。データとして入れるとよいと思う。

会 長：氷室の郷は先駆的な取り組みであり、素晴らしい施設と思うが、最近くたびれてしまっており、もったいない気がする。

委 員：5、6年前はもっとひどい状態だった。イベントや草刈りなどの活動をしたおかげで、見た目はその頃よりだいぶよくなった。しかし、認知度は南丹市民の中でも低い。

会 長：氷室の郷や八木バイオエコロジーセンターは誇るべき施設と思うが。アクセスが難しいのが難点か。

委 員：ヒアリングの中にもあるが、氷室の郷ではイベントの際、参加者に箸・皿・ゴミ袋を持参してもらっている。初めは抵抗があったが、続けることで、参加者にも取り組みが定着したのだと思う。

会 長：草を屋根に使うのは珍しいが、今はくたびれてしまっている。イベントの中で草屋根の復活を行ってはどうか。施設を拠点とした啓発活動にもつながると思う。コンセプトを再確認し、修繕すべきところは修繕するとよい。

委 員：子供向けにエコポイントラリーというイベントをしている。各プラントがどういうものかを、クイズ形式で知ってもらうものである。

会 長：氷室の郷に匹敵するような施設はあるのか。

事 務 局：特になし

委 員：氷室の郷はもうやめるのでは。やめた方がよいという意見もあるようだが。バイオエコロジーセンターも修繕続きで大変とのこと。それを引きずっていくよりも、新しい技術をいち早く導入し、拡大していくのがこの審議会の役目かと思う。EEFA 南丹では、新しい技術（木材から軽油をとるなど）に目を向けており、すでに動いているプラントもある。アンケートで南丹市に魅力がないと言われるのは、何もないから。魅力のあるまちにするには、未来を見据えた環境産業を取り入れるべき。新しい技術を導入すれば、山もよくなるはず。ごみを捨てない、などは当たり前の話。これから進むべき話をしなければならぬ。

会 長：新しい技術については、時間が許すならぜひプレゼンしていただきたい。

- 委員：南丹市でもできそうなものが5つほどある。
- 会長：バイオエコロジーセンターは全国にも知られる施設であり、背景には畜産業もある。やめる訳にはいかないのかもしれないが、新技術の導入も必要であり、認識として持っていなければならない。木材の石炭化という技術もあり、取り組むところもあるが、現段階ではコストが合わない。コストを考えると難しいが、長い目で見ることにも必要。勉強しながら、取り組みそうなものは盛り込むこともあるかと思う。
- 委員：木質の燃料化はまだ試作段階。廃食用油のBDF化は京都市でもやっており、比較的簡単。南丹市もやる気を出せばすぐできるのでは。八木に、てんぷら油の収集活動をしている団体もあり、週に180ほど収集している。南丹市でどのように収集するかが問題。
- 会長：一般的に、収集コストが問題となり、実現が難しいようである。工場まで持ち込めれば80円/ℓで加工できるのかもしれないが。
- 委員：南丹市で仮に180ℓのタンクを置いて持ってきてもらい、業者に取りに来てもらうとして、90円/ℓほどになっている。まずできることからしてみても。新しい技術では、徳島で取り組んでいる、木材を圧縮加工しバイオ燃料とする技術や、和歌山で取り組んでいるものもある。
- 委員：和歌山は、木材に熱を加えず、化学反応で成分を分離する技術。しかし、最後にはコストが問題となっている。
- 委員：一番初めに取り組みれば国から補助がでるはず。
- 会長：コスト面などの現実的な問題はありますが、情報を集め合って、取り組みそうなものがあれば検討していくべきである。報告書に入れるかどうかも含め、事務局に情報収集をお願いしたい。
- 委員：勉強することは大事だが、報告書を読んでもよく分からない。実際見たり聞いたりするのが一番よく分かる。
- 委員：スケジュールを考えると、新技術の導入は難しいのでは。まずは1年後の審議会での答申に向けて、市民が実際取り組める、実質的なことを検討していかなければ、審議会が無駄なものに終わってしまうのでは。
- 会長：どこまでできるかは分からないが、新しいことについての意見も、審議に支障をきたさない程度で取り入れていければと思う。

【 3）南丹市環境基本計画の体系 4）策定体制について】（事務局より説明）

- 会長：WG構成については、各委員に確認済みとのことだが、この構成に限定されず、積極的に参加いただければと思う。

【 5）その他 】

- 事務局：次年度はWGを各3回、審議会を2回開催する予定である。その中で、新技術の検討やプレゼン等、各委員からの意見も検討できればと思う。
- 会長：京都のヒバナ（Hibana）という所が木質バイオマスの新しい利用について活動しているので、情報収集しレポートを作成願いたい。今後検討する上で有意義なレポートになると思う。
- 事務局：先ほど話にあがった、木質フェノールの燃料化と亜臨界水による分解についても、レポートを作成すべきか。
- 会長：一度相談願いたい。
- 委員：参考資料P1-76「バイオマス利活用のフロー」だが、これができるまでの検討資料は出せるか。
- 事務局：バイオマスタウン構想は、まず利用率を設定し、それに向けて現状のものを活用していこうというもの。計画段階ではないので、試算し数値を積み上げたものではない。
- 会長：エネルギーWGは避けて通れない。数値目標とまでは行かなくても、新技術導入を検討しどこかで収拾することになるだろうが、構わないか。
- 事務局：施策に反映するには予算などの関係もあるが、「取り入れるべき技術として検討が必要」という内容なら構わない。
- 会長：エネルギーWGの中で、バイオマスタウン構想の後に取り組むべきことについても検討できればと思う。
- 委員：主な課題についての検討は、各WGに入ってから行うのか、その前に全体審議会で行うのか。WGに入ってからだと、それで時間をとられる気がする。
- 会長：個人的には、はじめに全体審議会を行い、意識を共有した上でWGに入った方が方向性がぶれないと思う。審議会→WG→審議会が好ましいと思うが。スケジュールについてどう考えているのか。
- 事務局：細かいスケジュールについてはまだ考えていない。委員の都合もあるので、前半に審議会、後半にWGとするなど、できるかぎり時間をとらない方法を考えたいが。
- 会長：WGの時間が短いと、あまり有意義な検討ができないと思う。できれば半日ほど時間をかけたい気もするが、現実的に難しいか。各委員の意見も聞いた上で調整してほしい。

< 7. 閉会 >

以上